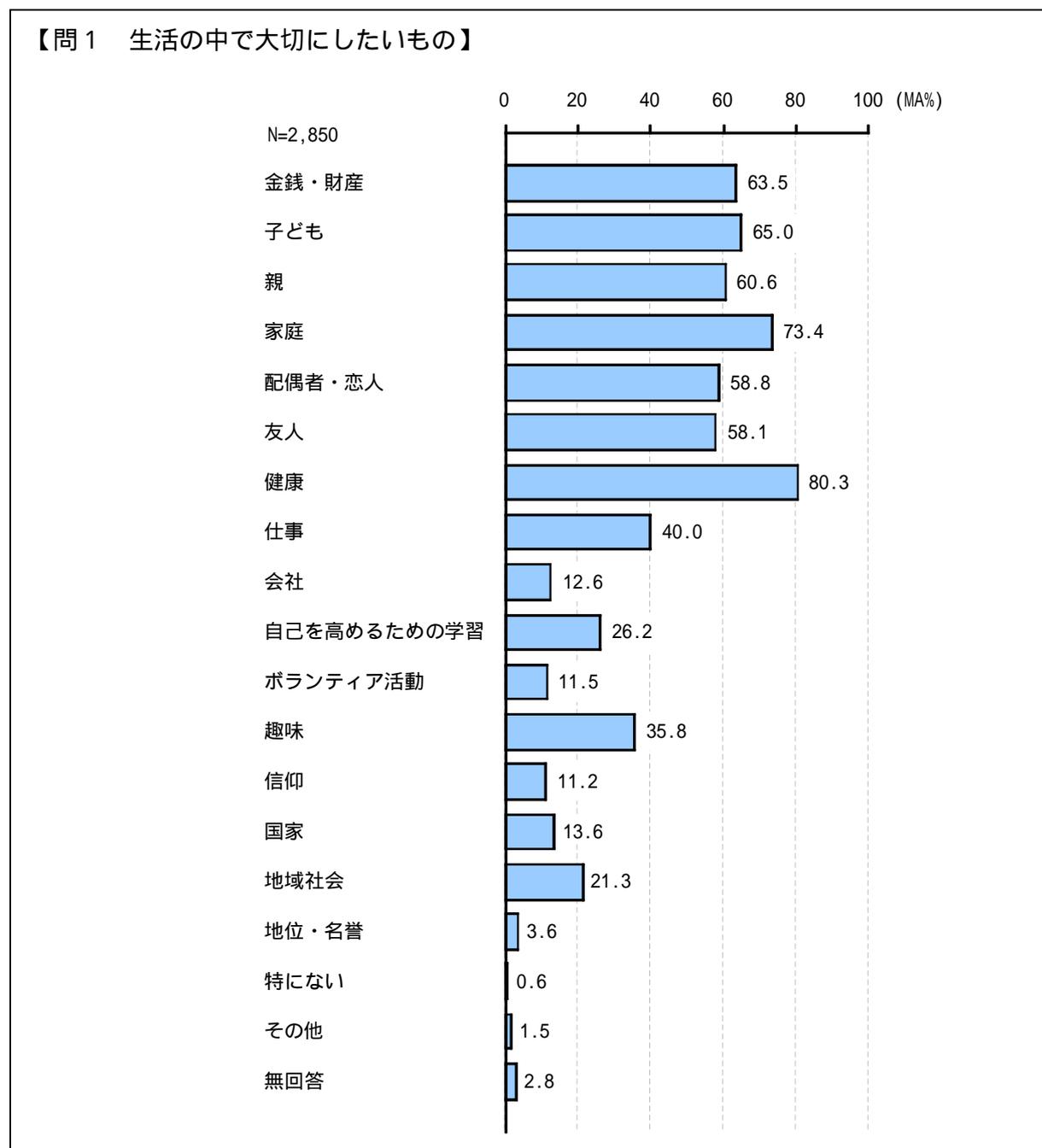


1 社会意識について

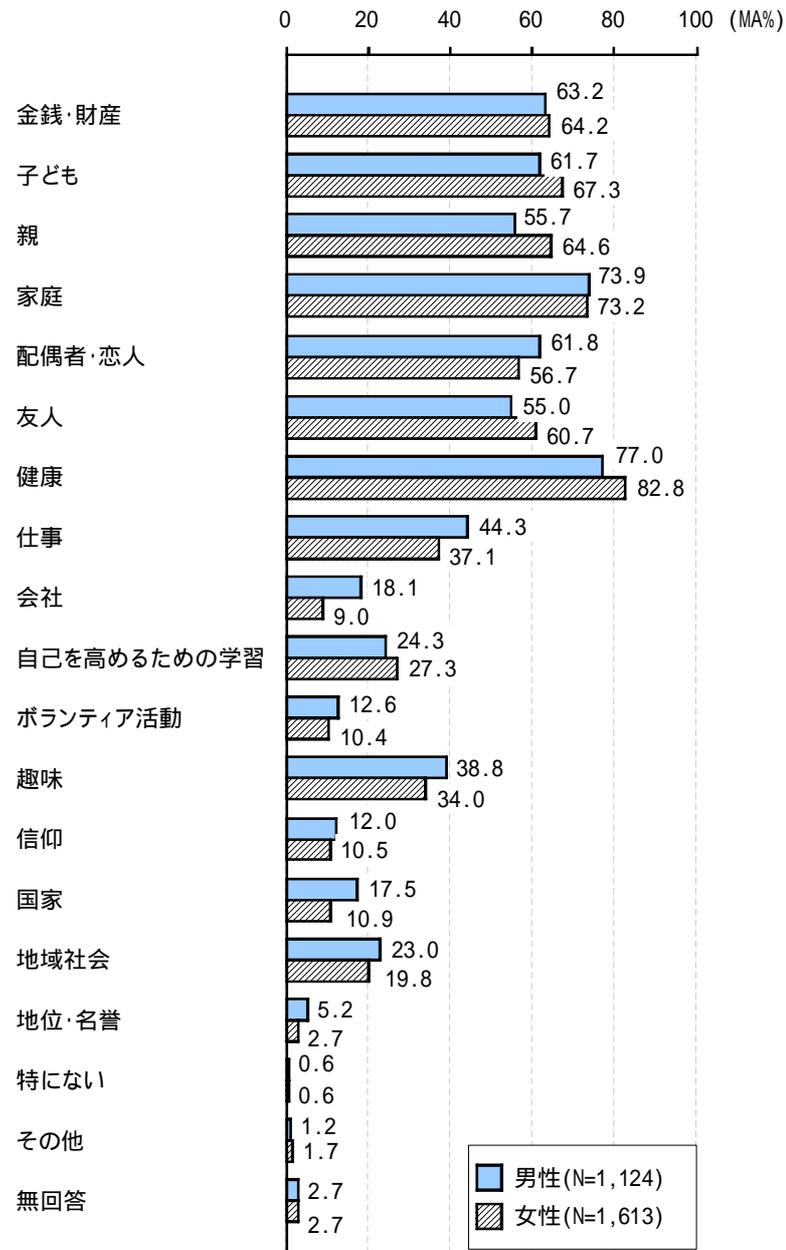
問1 あなたが生活の中で大切にしたいと思っているものは何ですか。

(あてはまるものすべてに)



生活の中で大切にしたいものについては、「健康」(80.3%)が最も高く、次いで「家庭」(73.4%)、「子ども」(65.0%)となっている。また、「金銭・財産」、「親」、「配偶者・恋人」、「友人」が過半数を占めている。

【問1 生活の中で大切にしたいもの(性別)】



生活の中で大切にしたいものについて、性別で見ると、男性では、「配偶者・恋人」、「仕事」、「会社」、「国家」で、女性では、「子ども」、「親」、「友人」、「健康」でそれぞれよりも5ポイント以上高くなっている。

【問1 生活の中で大切にしたいもの（年代別）】

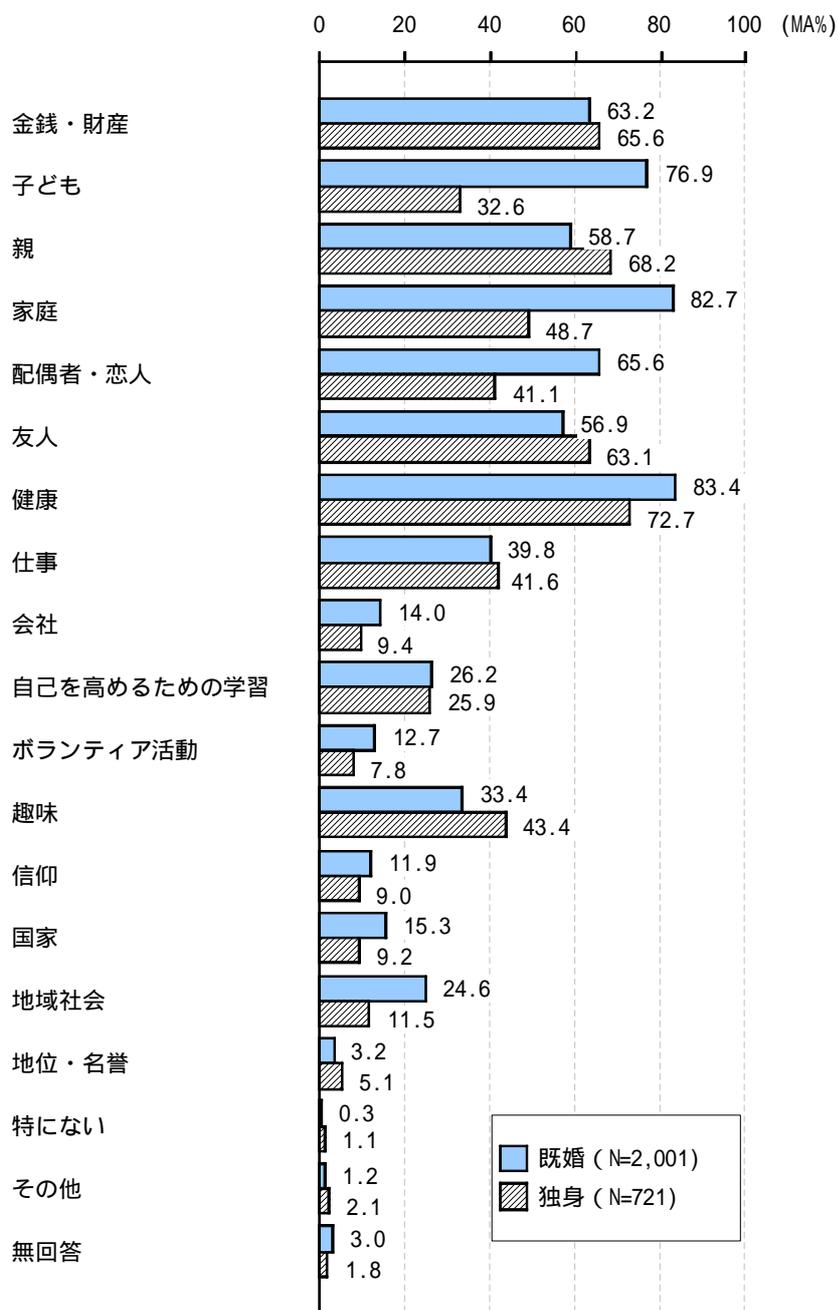
（上段：回答者数 / 下段：回答比率）(MA%)

	全 体	金 銭 ・ 財 産	子 ど も	親	家 庭	配 偶 者 ・ 恋 人	友 人	健 康	仕 事	会 社
全 体	2850 100.0	1811 63.5	1853 65.0	1727 60.6	2093 73.4	1676 58.8	1657 58.1	2289 80.3	1139 40.0	359 12.6
20歳未満	99 100.0	77 77.8	25 25.3	79 79.8	52 52.5	41 41.4	76 76.8	68 68.7	29 29.3	7 7.1
20歳代	287 100.0	193 67.2	108 37.6	223 77.7	160 55.7	171 59.6	211 73.5	188 65.5	123 42.9	24 8.4
30歳代	446 100.0	290 65.0	286 64.1	363 81.4	341 76.5	312 70.0	287 64.3	346 77.6	207 46.4	59 13.2
40歳代	353 100.0	225 63.7	262 74.2	266 75.4	286 81.0	229 64.9	211 59.8	283 80.2	166 47.0	51 14.4
50歳代	561 100.0	357 63.6	415 74.0	347 61.9	439 78.3	350 62.4	323 57.6	489 87.2	279 49.7	91 16.2
60歳代	588 100.0	362 61.6	424 72.1	251 42.7	457 77.7	311 52.9	295 50.2	496 84.4	201 34.2	76 12.9
70歳以上	404 100.0	241 59.7	260 64.4	137 33.9	277 68.6	194 48.0	195 48.3	331 81.9	92 22.8	39 9.7

	自 己 を 高 め る た め の 学 習	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	趣 味	信 仰	国 家	地 域 社 会	地 位 ・ 名 誉	特 に な い	そ の 他	無 回 答
全 体	747 26.2	329 11.5	1020 35.8	319 11.2	388 13.6	607 21.3	104 3.6	16 0.6	44 1.5	80 2.8
20歳未満	32 32.3	14 14.1	48 48.5	5 5.1	6 6.1	8 8.1	8 8.1	- -	6 6.1	3 3.0
20歳代	72 25.1	15 5.2	125 43.6	16 5.6	9 3.1	22 7.7	11 3.8	2 0.7	2 0.7	5 1.7
30歳代	106 23.8	28 6.3	154 34.5	31 7.0	18 4.0	63 14.1	17 3.8	1 0.2	6 1.3	7 1.6
40歳代	89 25.2	24 6.8	109 30.9	37 10.5	25 7.1	50 14.2	19 5.4	1 0.3	5 1.4	4 1.1
50歳代	162 28.9	72 12.8	208 37.1	53 9.4	73 13.0	129 23.0	17 3.0	2 0.4	8 1.4	15 2.7
60歳代	155 26.4	98 16.7	205 34.9	75 12.8	125 21.3	179 30.4	13 2.2	4 0.7	9 1.5	20 3.4
70歳以上	98 24.3	61 15.1	135 33.4	88 21.8	117 29.0	129 31.9	16 4.0	6 1.5	4 1.0	19 4.7

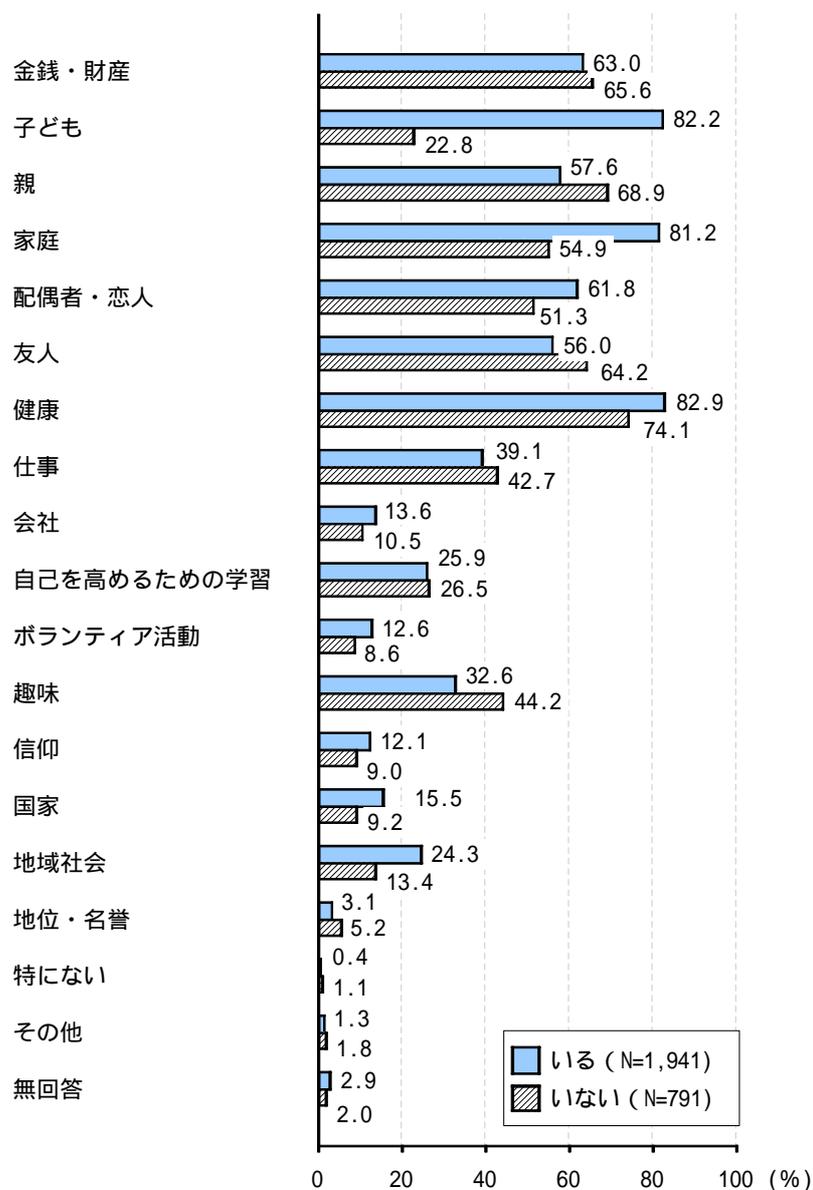
生活の中で大切にしたいものについて、年代別でみると、「子ども」は若い世代では低く年代があがるほど高くなる傾向にある。逆に「友人」では若い世代で割合が高く、年代があがるほど割合は低くなっている。また、60歳以上では、「国家」、「地域社会」、70歳以上では「信仰」の割合が他の年代に比べて高くなっている。最も関心度の高い「健康」の割合につき、前々回調査では年代に対応してあがっていたが、前回調査では60歳代が、今回調査では50歳代が最も高くなっている。

【問1 生活の中で大切にしたいもの（既婚・独身別）】



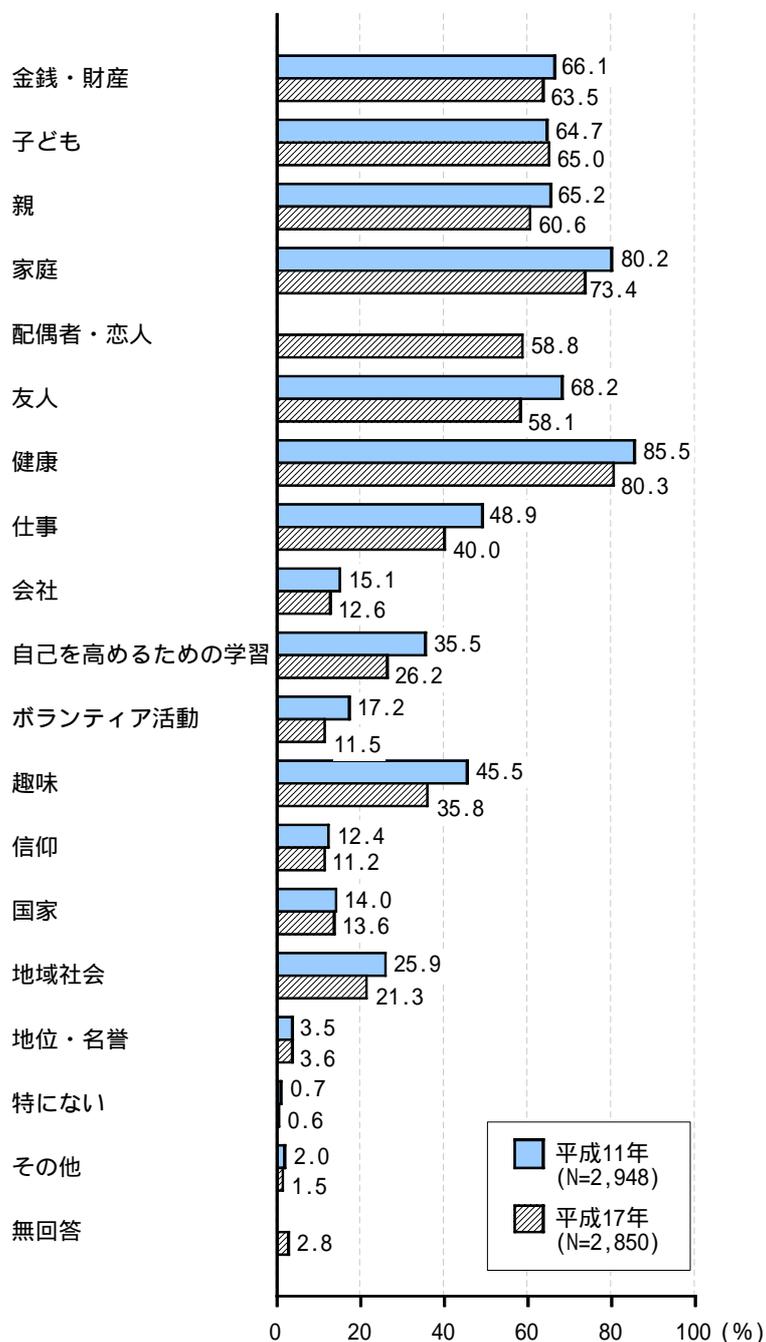
生活の中で大切にしたいものについて、既婚・独身別でみると、既婚・独身の方ともに「健康」の割合が最も高く、既婚の方は次いで「家庭」（82.7%）、「子ども」（76.9%）、「金銭・財産」（63.2%）となり、独身の方は、次いで「親」（68.2%）、「金銭・財産」（65.6%）、「友人」（63.1%）となっている。

【問1 生活の中で大切にしたいもの（子どもの有無別）】



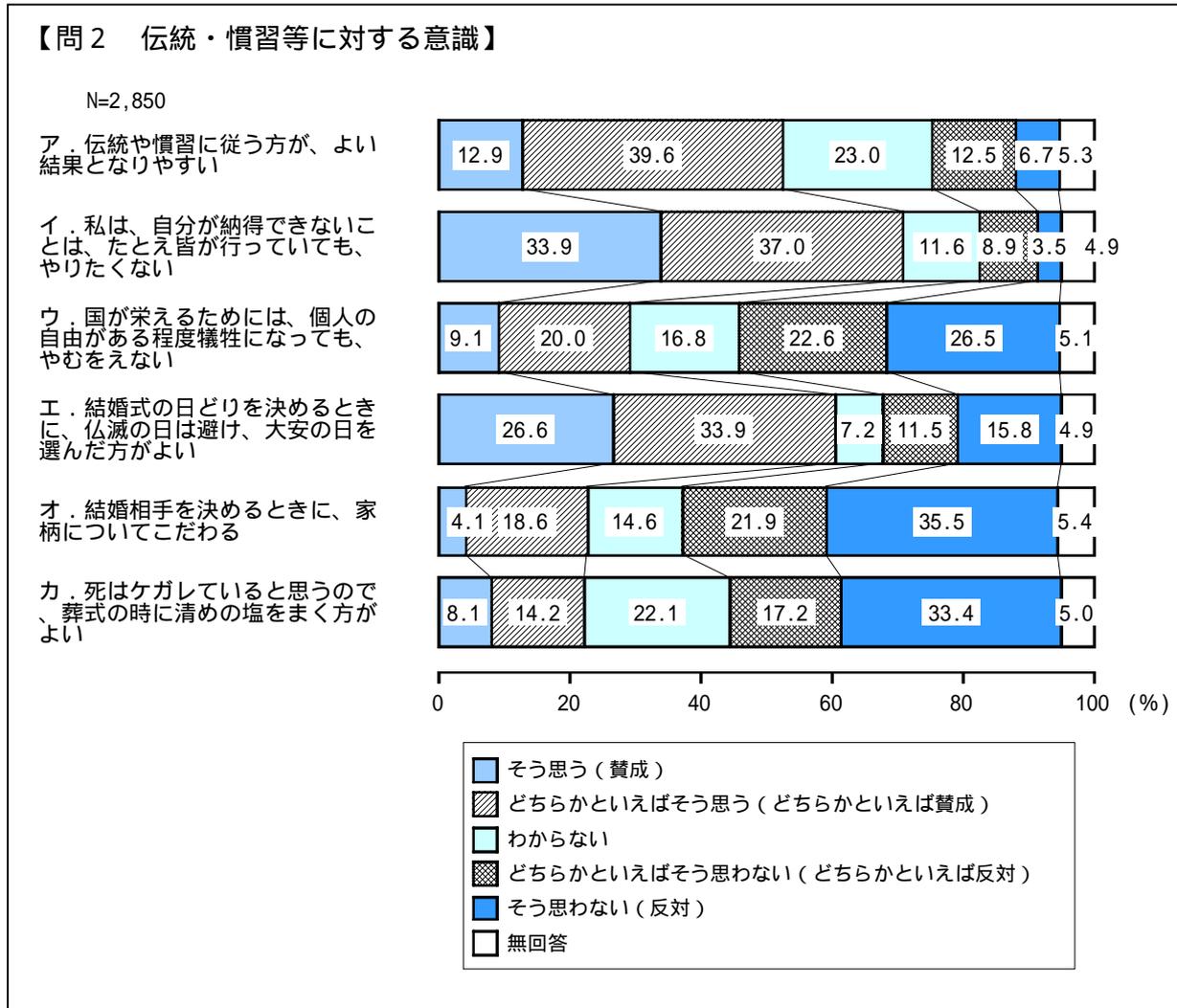
生活の中で大切にしたいものについて、子どもの有無別でみると子どもが「いる」では、「子ども」、「家庭」、「配偶者・恋人」、「地域社会」の割合が、子どもが「いない」では、「親」、「趣味」の割合がそれぞれ、10ポイント以上高くなっている。

【問1 生活の中で大切にしたいもの（前回調査との比較）】



前回調査、前々回調査と比較してみると、両調査では「健康」、「家庭」に次いで「友人」の割合が3番目に位置していたが、今回調査では「子ども」が登場し、「友人」の割合は10ポイント程度下がっている。一方、公的な領域での選好性は、「国家」、「会社」の割合が調査を経るごとにわずかつつではあるが、低くなっているのが、特徴的である。

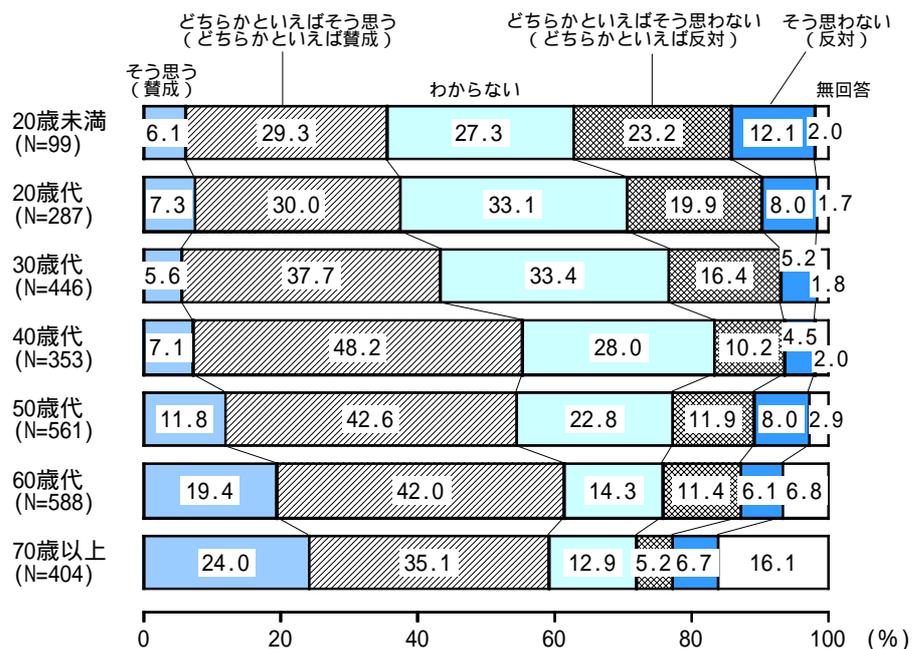
問2 次のア～カについて、あなたの考え方に最も近いものをそれぞれ選んでください。
 (ア～カのそれぞれについてあてはまる番号1つに)



伝統・慣習等に対する意識については、「(ア) 伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい」、「(イ) 私は、自分が納得できないことは、たとえ皆が行っていてもやりたくない」と「(エ) 結婚の日どりを決めるときに、仏滅の日を避け、大安の日を選んだ方がよい」では、「肯定派(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた層)」が過半数を占めている。

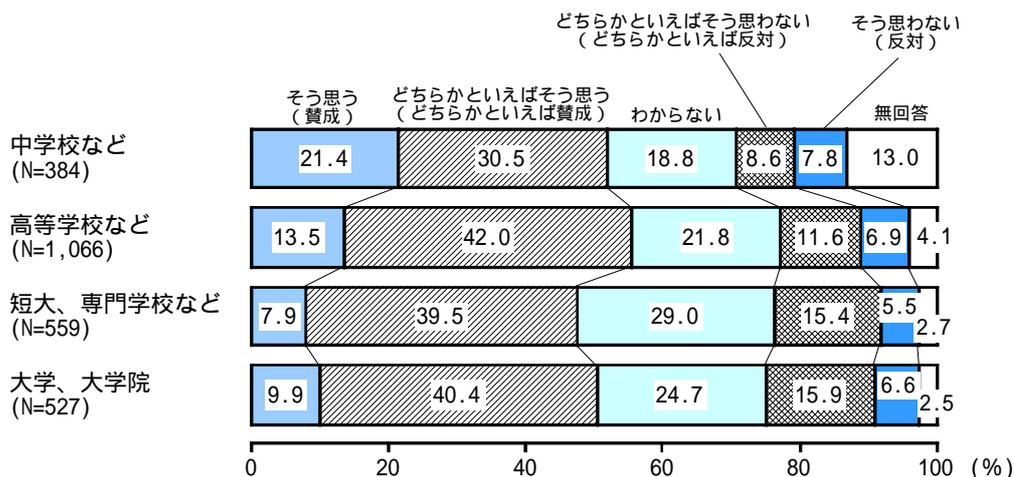
一方、「(ウ) 国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になってもやむをえない」、「(オ) 結婚相手を決めるときに、家柄についてこだわる」と「(カ) 死はケガれていると思うので、葬式の時に清めの塩をまく方がよい」では、「否定派(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた層)」が「肯定派」より割合が高くなっている。

【問2「(ア) 伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい」(年代別)】



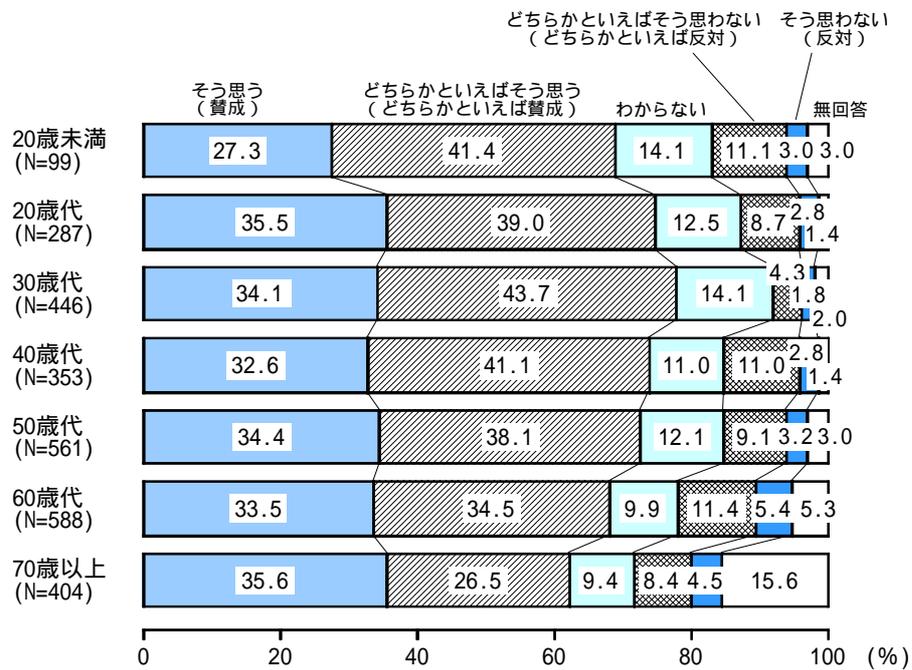
問2「(ア) 伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい」について、年代別でみると、「そう思う(肯定)」の割合は年代があがるほど高くなっている。逆に「そう思わない(否定)」の割合は若い世代ほど高くなっている。

【問2「ア．伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい」(最終学歴別)】



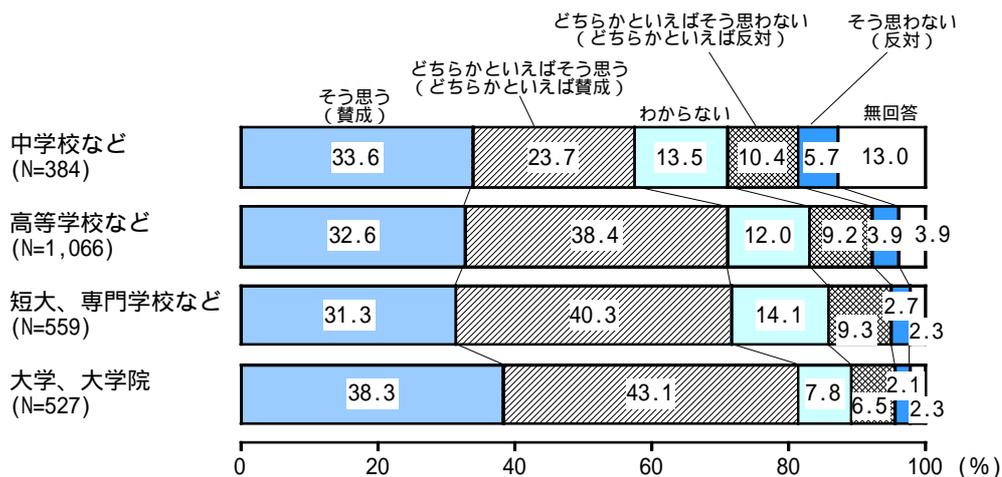
「ア．伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい」について、最終学歴別でみると、中学校などでは「そう思う(肯定)」が2割以上と他よりも高くなっている。一方で、「そう思う(肯定)」の割合は高くないが、高等学校など、大学・大学院でも「肯定派」が過半数を占めており、伝統や慣習に従うことについて肯定的な人々が多いと推測される。また、「否定派」の割合は高学歴になるほど高くなっている。

【問2「イ.私は、自分が納得できないことは、たとえ皆が行っていても、やりたくない」
（年代別）】



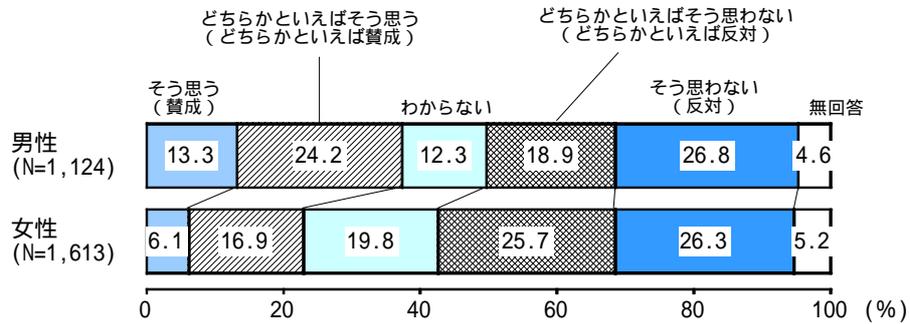
「イ.私は、自分が納得できないことは、たとえ皆が行っていても、やりたくない」について、年代別でみると、「肯定派」の割合は30歳代が最も高くなっている。

【問2「イ.私は、自分が納得できないことは、たとえ皆が行っていても、やりたくない」
（最終学歴別）】



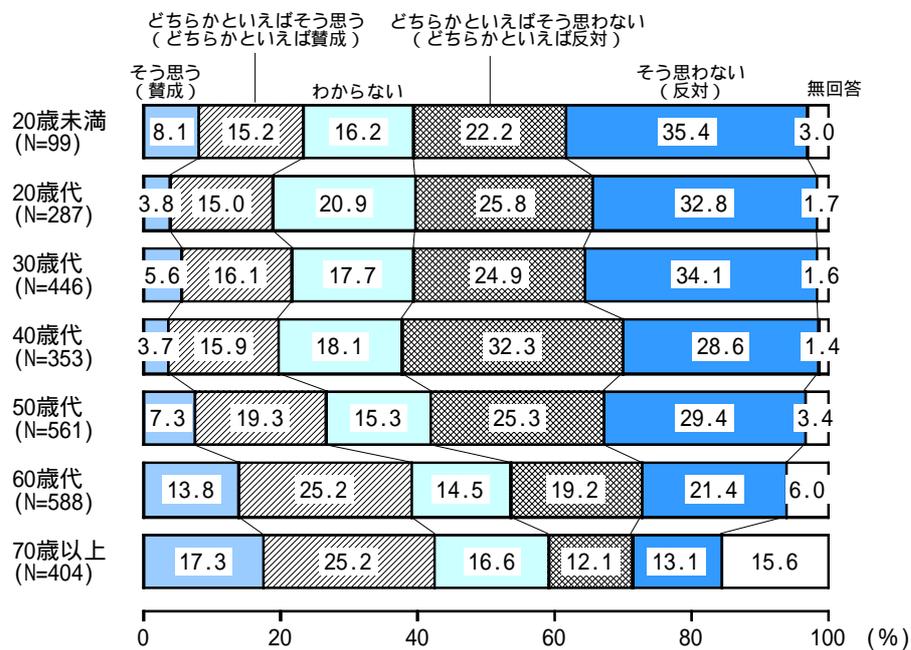
「イ.私は、自分が納得できないことは、たとえ皆が行っていても、やりたくない」について、最終学歴別でみると、「肯定派」の割合は高学歴ほど高くなっている。

【問2「ウ．国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない」
（性別）】



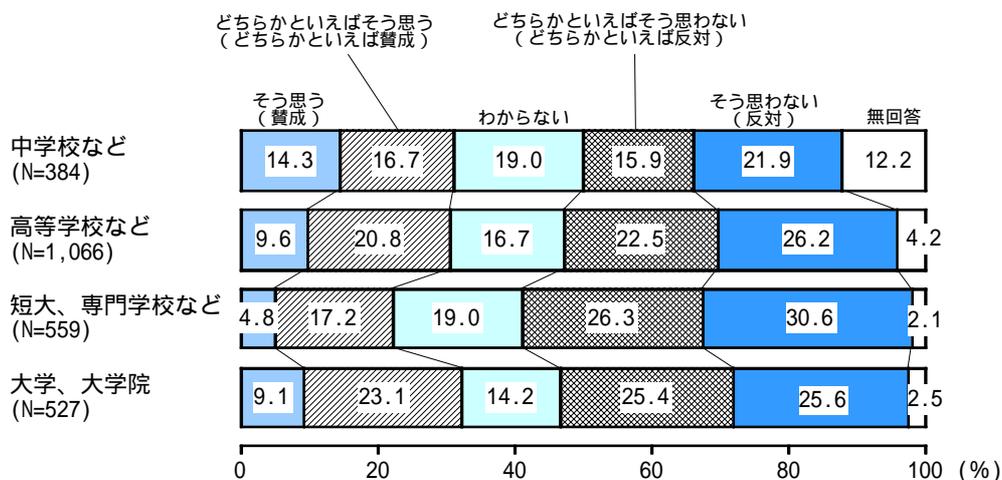
「ウ．国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない」について、性別でみると、「肯定派」は男性で37.5%、女性で23.0%と男性が14.5ポイント高くなっている。また、「否定派」は男性で45.7%、女性で52.0%と女性は過半数を占める結果となっている。

【問2「ウ．国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない」
（年代別）】



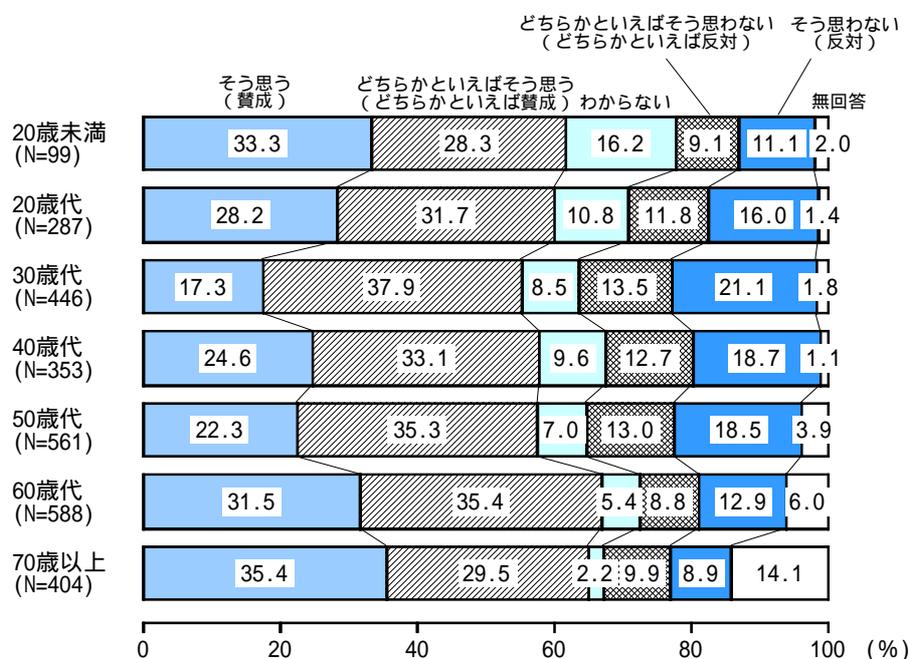
「ウ．国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない」について、年代別でみると、「肯定派」の割合は、年代が上がるほど高くなっている。しかし、「否定派」の割合は50歳代以下で過半数を超えている。

【問2「ウ．国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない」
（最終学歴別）】



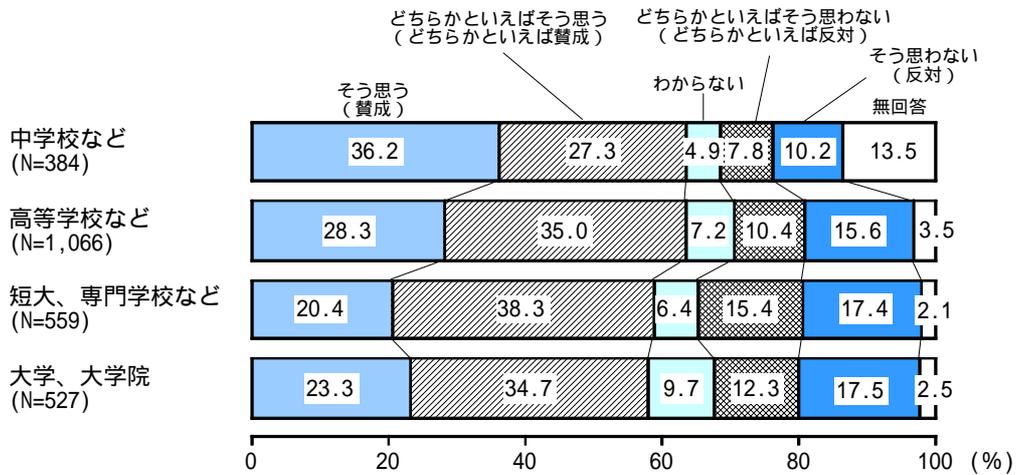
「ウ．国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない」について、最終学歴別でみると、短大、専門学校などを除く学歴で「肯定派」の割合が3割を超えている。

【問2「エ．結婚式の日どりを決めるときに、仏滅の日は避け、大安の日を選んだ方がよい」（年代別）】



「エ．結婚式の日どりを決めるときに、仏滅の日は避け、大安の日を選んだ方がよい」について、年代別でみると、「肯定派」の割合は、30歳代の55.2%が最も低くなっている。それでも、「肯定派」の割合はすべての年代で過半数を超えている。

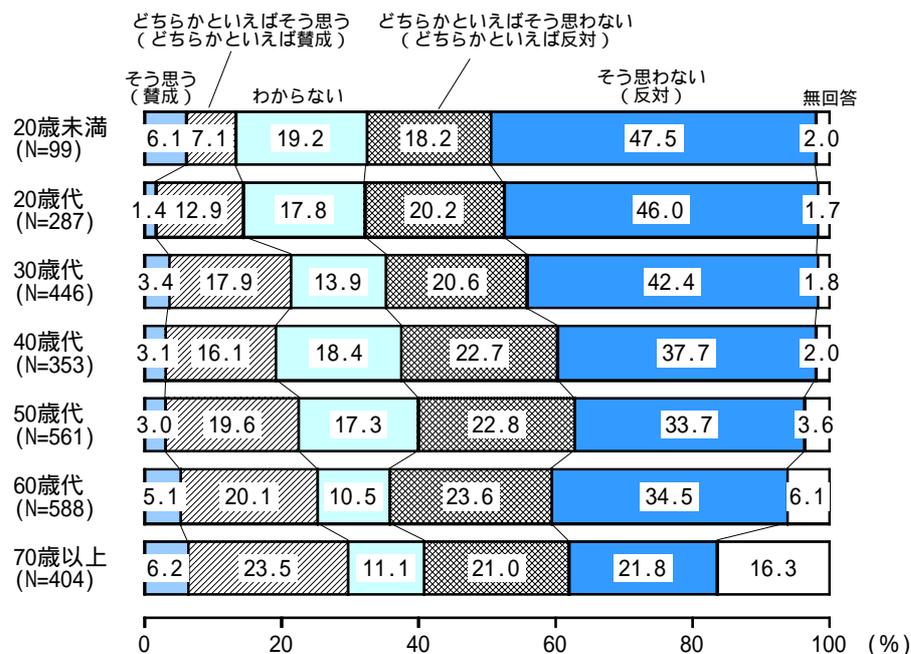
【問2「エ．結婚式の日どりを決めるときに、仏滅の日は避け、大安の日を選んだ方がよい」（最終学歴別）】



「エ．結婚式の日どりを決めるときに、仏滅の日は避け、大安の日を選んだ方がよい」について、最終学歴別でみると、「肯定派」の割合は中学校など、高等学校などでやや高くなっている。

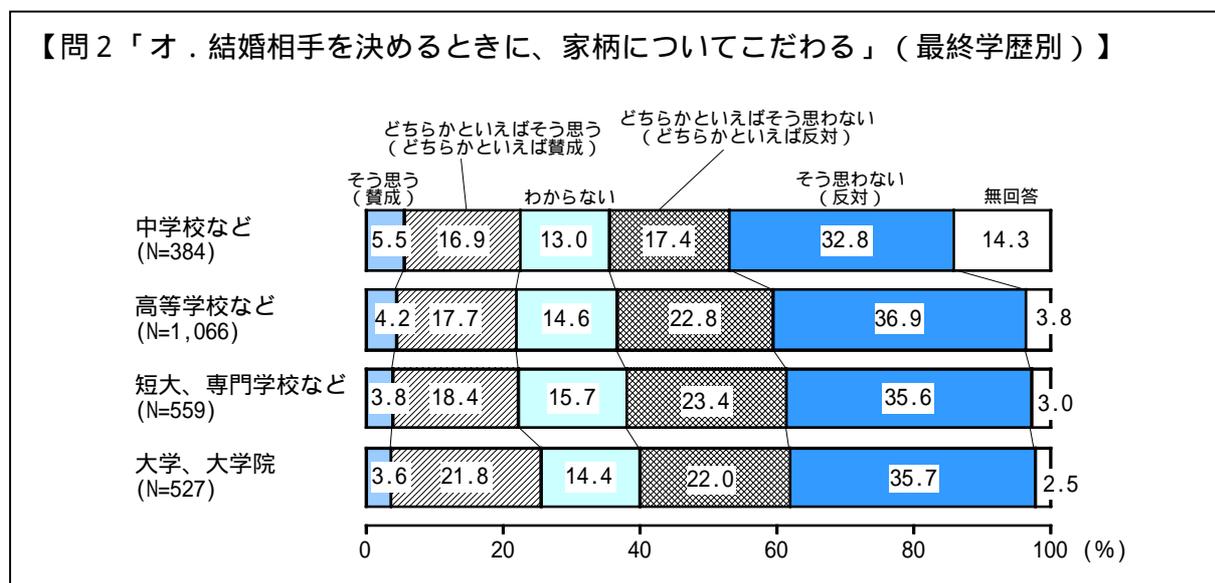
「ア．伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい」と同様に肯定的意見の割合が高く、否定的意見は高学歴ほど、高くなる傾向となっている。

【問2「オ．結婚相手を決めるときに、家柄についてこだわる」（年代別）】

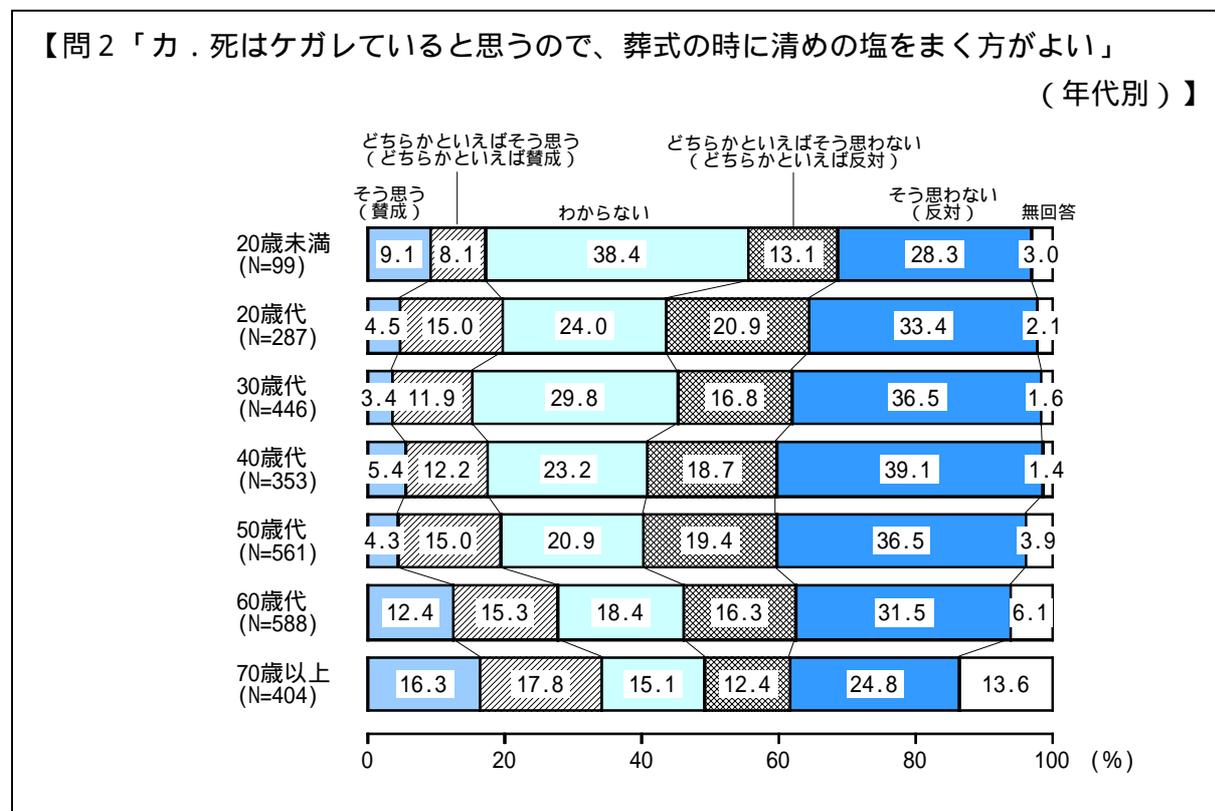


「オ．結婚相手を決めるときに、家柄についてこだわる」について、年代別でみると、「そ

「思う」の割合はすべての年代で1割を下回っているが、「肯定派」の割合は30歳代と50歳代以上で2割を超えている。「否定派」の割合は70歳以上を除くすべての年代で過半数を超えている。

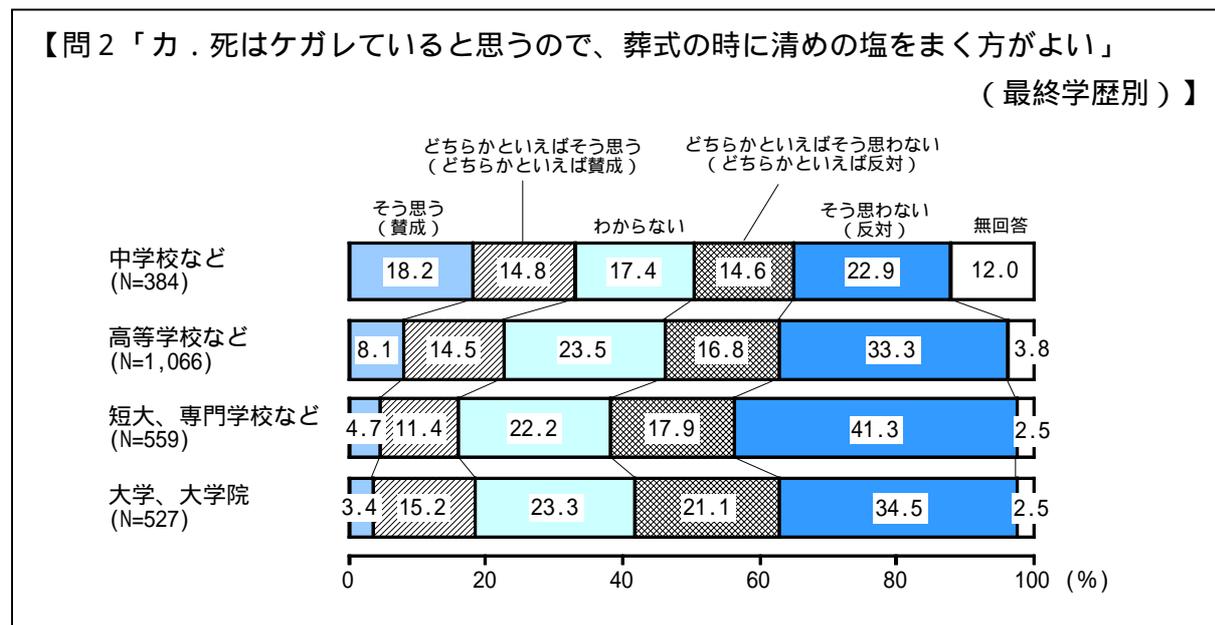


「オ．結婚相手を決めるときに、家柄についてこだわる」について、最終学歴別でみると、すべての学歴で「否定派」の割合が過半数を超えている。



「カ．死はケガれていると思うので、葬式の時に清めの塩をまく方がよい」について、年代

別でみると、「肯定派」の割合は30歳代が最も低くなっている。「否定派」の割合は、20歳代～50歳代で過半数を超えている。20歳未満では「わからない」が約4割を占めている。



「カ．死はケガれていると思うので、葬式の時に清めの塩をまく方がよい」について、最終学歴別でみると、「肯定派」の割合は高学歴になるほど低い傾向となっている。また、「否定派」の割合は短大、専門学校などで59.2%と最も高く、高等学校など、大学、大学院でも過半数を占めている。

「ア．伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい」や「エ．結婚式の日どりを決めるときに、仏滅の日は避け、大安の日を選んだ方がよい」では「肯定派」の割合が高くなっているが、「カ．死はケガれていると思うので、葬式の時に清めの塩をまく方がよい」では「否定派」の割合が多数を占めており、同じ伝統や慣習に対しても考え方の違いが明確にあらわれている。

【問2 伝統・慣習等に対する意識（前回調査との比較）】

ア．伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい

平成11年
(N=2,948)

平成17年
(N=2,850)

イ．私は、自分が納得できないことは、たとえ皆が行っていても、やりたくない

平成11年
(N=2,948)

平成17年
(N=2,850)

ウ．国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない

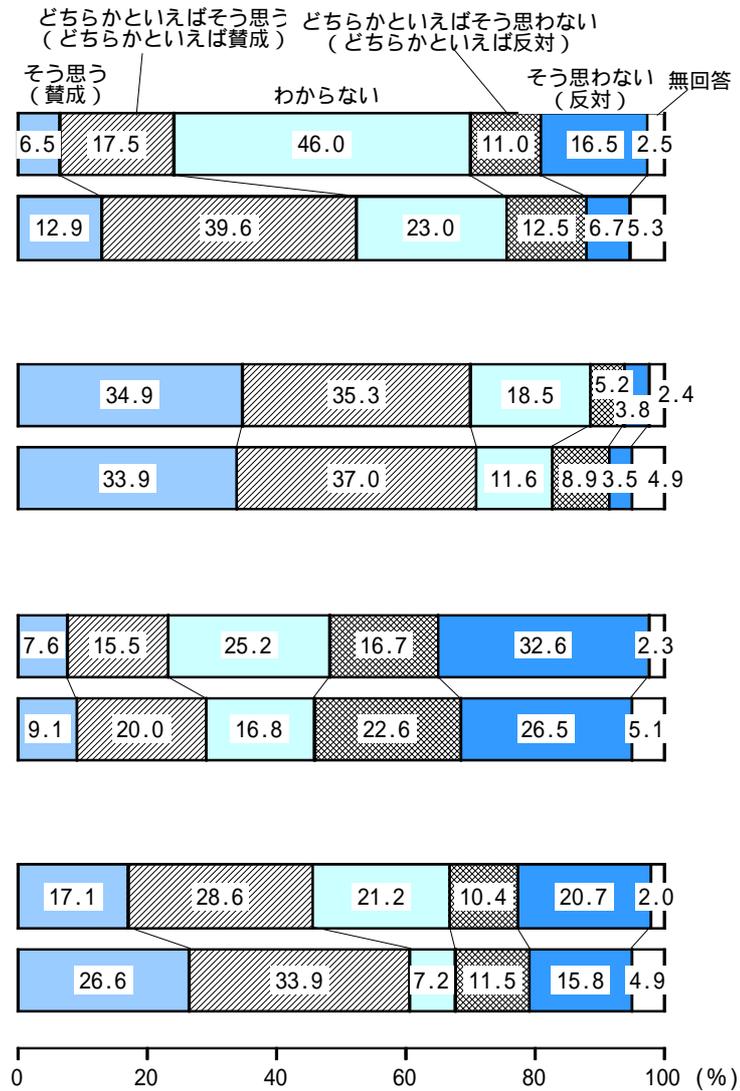
平成11年
(N=2,948)

平成17年
(N=2,850)

エ．結婚式の日どりを決めるときに、仏滅の日は避け、大安の日を選んだ方がよい

平成11年
(N=2,948)

平成17年
(N=2,850)



伝統・慣習等に対する意識について、前回調査と比較すると、全ての項目で「肯定派」の割合が増加しており、特に「ア．伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい」という肯定的回答は前々回調査で23.6%、前回調査で24.0%に対し、今回は52.5%と倍増しているのが注目される。

「エ．結婚式の日どりを決めるときに、仏滅の日は避け、大安の日を選んだ方がよい」でも前々回調査51.6%、前回調査45.7%に対し、今回調査では60.5%となっており、保守的意識の増大がうかがえる。また、前回調査に比べて、「わからない」の割合が減ったことによる2極化が進んだと思われる。